

## 第5回『北海道外アイヌの生活実態調査部会』議事概要

日 時：平成22年10月8日（金）14：30～16：30

場 所：北海道大学ポプラ会館会議室C

出席者：委 員：常本部会長ほか全委員出席

事務局：青木審議官、内閣参事官ほか

傍 聴：経産省、北海道、札幌市

議 事：

### 1 調査項目等について

#### (1) 主な意見等

##### ○世帯調査票について

- ・家族の状況に関する質問において、「独立しているお子さん」とあるが、同居していても収入のある子、別居していても生計を親に依存している子をそれぞれどのように考えるのか。
- ・家族の状況に関する質問において、扶養している者を「ご両親」に限定することでよいのか。限定する趣旨でなければ「ご両親「等」」か「扶養家族」とするなど表現を考えるべき。
- ・世帯主が誰かを問う場合、「家計を負担」と支出面から捉えるのか、収入面から捉えるのか。

##### ○個人調査票について

- ・アイヌの血縁状況に関する質問については、事前の電話調査においても確認していることなので、調査実施時の抵抗は大きくはないのではないかと。
- ・ただ、「祖父母」の状況まで答えていただけるかどうか、祖父母のことまで分からないことも多いと思われ、意図した回答が得られるかどうか、懸念もある。
- ・北海道であれば、祖父母がアイヌの血を引いているかどうかについて答えることができることが多いと思われるが、本州ではまた意識が異なるのも事実である。
- ・アイヌの血を引いているかどうかについて、祖父母の状況まで分からないことも多い。
- ・この質問は、今回の調査がアイヌに対する調査であるということについての、外部から見た調査の信頼性に関わるものであり、この質問がない場合は信頼性を問われる恐れがある。また、調査対象者であるかどうかをアイデンティティのみで判断することは難しく、このような点からも、血を引いているかどうかを質問せざるを得ないと考えられる。
- ・一方で、アイヌの血を引いているかどうかについて、祖父母の状況まで分からないことも多いと思われるので、丸が付いていなかったり、「わからない」という回答が多くなることで、調査結果が誤解されないか心配もある。アイヌの血を引いているかどうかについて「祖父母」の状況まで聞くことがプラスかマイナスか、という問題と考える。
- ・「祖父母」の状況まで聞くことにはマイナス面の方が多いと思う。
- ・最近の学生は祖父母の出自がわからないことが多い。「和人」は祖父母の出自が分からなくても和人でいられるのにアイヌは祖父母の出自が分からなければならないというのは不合理ではないか。
- ・仕事に関する質問について「仕事に従事されている方」は「仕事をされている方」とすべき。
- ・健康診断の受診状況に関する質問について「健康管理」という文言はひっかかりがある。
- ・「健康管理」という文言では広すぎる。健康診断の受診状況を知りたいのであれば、そのように質問すればよいのではないかと。
- ・これまで通ってきた学校に関する質問について、「尋常小学校」「高等小学校」とあるが、世代によってはわからないこともあり、解説が必要ではないか。
- ・確かに世代によっては「尋常小学校」「高等小学校」がわからないことがあるが、解説があることでかえって煩雑となるのではないかと。解説がなくとも回答に支障はないのではないかと。

## (2) 合意事項

- ・アイヌの血縁状況に関する質問について、選択肢のうち「祖父母」「わからない」は削除。「父母」が血を引いているかどうかについてのみ質問することとする。
- ・指摘のあった事項の修正については部会長一任とする。

## 2 調査の進捗状況について

### (1) 主な意見

- ・さらなる調査対象者の確保が必要と考えられるため、調査対象者の把握作業の期間を延長し、できるかぎり広報等を行い、対象者把握に努めるべきと考える。
- ・北海道内のアイヌから道外のアイヌを紹介してもらうにあたって、どのように北海道内のアイヌに呼びかけるのか、が非常に大切である。北海道内アイヌへの紹介依頼文の適切性などについて部会でも議論し、責任を共有するべきである。
- ・北海道内アイヌに、今回の調査の趣旨を含めてきちんと呼びかけをしてきたのか。
- ・官邸のホームページやアイヌ関連イベントにおける広報は、すでにアイヌ政策などに興味を持つ者や活動している者しか見ないのであり、北海道外アイヌの掘り起しにはならない。隠れているアイヌに届く広報、新聞、テレビ、ラジオによる広報が必要。
- ・アイヌ協会の取組が不十分と思う。理事・監事が今回の調査の趣旨を全く理解していない。
- ・アイヌ協会内部でもう少しPRしてほしい。
- ・調査対象者の紹介について図書券などのお礼を渡す、ということは検討できないか。道内で不適切経理が問題となっている状況で適切な取扱い、リスクがあるのではないか、などの課題もあるが。
- ・調査対象者の紹介について景品を渡す、ということには反対。これはお金の問題ではなく、民族としてのプライドの問題、自分たちの未来の問題である。
- ・今回の調査を有意なものとするための最低限の調査対象者数の想定が必要ではないか。北海道外のアイヌ人口は、北海道内のアイヌ人口よりは少ないと考えられる。例えば、母集団約25,000(北海道内のアイヌ人口を念頭においている)の場合、他の要素を抜きにして言えば、誤差5%以内の有意な調査結果を得られるサンプル数は約300である。母集団の数がこれより少ないのであれば、必要なサンプル数もより少なくてよいのかもしれない。

### (2) 合意事項

- ・調査対象者把握作業の期間を延長することは了承。何時まで延長するかは部会長一任。
- ・アイヌ協会における1度目の北海道内アイヌへの紹介依頼文を各委員において精査すること。
- ・同協会の2度目の紹介依頼文について、各委員の検討を経ること。

## 3 作業部会の今後の運営について

### (1) 主な意見

- ・必要な政策を検討し適用する際に、その対象者を認定する手続きについて、知識の蓄積を行うとのことだが、まず、アイヌの団体の意見を聞くべきである。
- ・知識の蓄積を行うにあたっては、当然アイヌの団体の意見を聞くべきと考える。

### (2) 合意事項

- ・今後の作業部会において、必要な政策を検討し適用する際に、その対象者を認定する手続きについて、知識の蓄積を行うとのことでは了承。

## 4 その他

- ・第6回の日程は別途調整(詳細等は後日、事務局から調整)